

麦類赤かび病の増加が懸念されます！追加防除を行いましょう。

5 月上旬 (8～12 日) の調査で、県内各地の二条大麦、小麦において、赤かび病の発生が確認されました。調査ほ場 (40 地点) における発生ほ場率は 12.5% で、過去 10 年間では赤かび病が多発した昨年度 (42.5%) に次ぐ高い値でした。気象庁の 1 か月の気象予報 (5 月 8 日発表) によると、平均気温は高く、降水量は多い見込みであり、今後、本病がさらに増加するおそれがあります。収穫期まで日数のある六条大麦、小麦では追加防除を実施しましょう。

表 1 防除適期

麦種	防除適期
六条大麦	開花始※と開花 10 日後の 2 回散布 多発のおそれがある場合、3 回目散布
小麦	開花始※と開花 20 日後の 2 回散布 多発のおそれがある場合、3 回目散布

※抽出した葯を初めて認めた日

本病菌は、人畜に有害なカビ毒 (DON、NIV 等) を産生するため、農産物検査の規格では、食用の全麦種で赤かび粒の混入限度が 0.0% を超えないことと定められています。



六条大麦での発生状況 (矢印)

表 2 小麦または麦類の赤かび病に登録のある主な薬剤 (令和 7 (2025) 年 4 月 30 日現在)

農薬名	作物名	希釈 倍数	使用 方法	使用時期／ 本剤の使用回数	薬剤 系統 名	FRAC コード
シルバキュアフロアブル	小麦	2000 倍	散布	収穫 7 日前まで ／ 2 回以内	DMI 剤	3
ワークアップフロアブル	麦類	2000～ 3000 倍	散布	収穫 7 日前まで ／ 3 回以内		
チルト乳剤 25	小麦	1000～ 2000 倍	散布	収穫 3 日前まで ／ 3 回以内		
ミラビスフロアブル	小麦	1500～ 2000 倍	散布	収穫 7 日前まで ／ 2 回以内	SDHI 剤	7
トップジンMゾル	小麦	8 倍	無人航空機 による散布	収穫 14 日前まで ／ 出穂期以降は 2 回以内	MBC	1

注1：必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守る。

注2：薬剤抵抗性の発達を防ぐ観点から、FRACコードが同一のものは連用を避ける。

注3：散布の際は収穫前日数を必ず確認する。

注4：無人航空機による散布は、一般の散布とは希釈倍数 (散布液量) が異なるので注意する。

詳細は、農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課 (Tel 028-665-1244) までお問合せ下さい。

病虫害情報発表のお知らせは「栃木県農政部 X (@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>) でもご覧になれます。

